



平成 19 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況 (連結)

平成 18 年 8 月 18 日

上場会社名 株式会社エス・サイエンス
(URL <http://www.s-science.jp/>)

(コード番号: 5721 東・大証第 1 部)

代表者 代表取締役社長 品田 守敏
問合せ先責任者 常務取締役 太田 洋三

TEL:(03) 3216-6431

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況 (注)(金額表示: 百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成 19 年 3 月期第 1 四半期	2,096	10.9	109		230		215	
平成 18 年 3 月期第 1 四半期	1,890	173.9			19		52	
(参考) 平成 18 年 3 月期	8,910	116.6	309		154		1,195	

(注) 当第 1 四半期より営業利益を開示しておりますので、前年第 1 四半期実績については記載しておりません。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期における我が国の経済は、設備投資、個人消費等の民需が堅調で、緩やかな景気拡大を持続しております。

ニッケル業界におきましては、主な需要先であるステンレス業界は好調を継続しており、本年度のニッケル需給はほぼ均衡と見込まれますが、LME 価格は投機資金の介入もあり非鉄金属全般の相場上昇により、期首のトン当たり 15,000 ドル台から 6 月末には 22,000 ドル台へと急騰しております。国内の需要につきましては、当社が販売に注力しております IT 関連材向けは急回復しておりますが一般メッキは低迷した状態で推移いたしました。

このような状況からニッケル事業につきましては、販売数量・販売価格のアップにより売上高は 9 億 5 8 百万円となりました。(前年同期比 35% 増)

不動産及び関連事業におきましては、販売・賃貸・仲介等の収入並びに建設業関連で 4 億 4 1 百万円の売上となりました。(前年同期比 298% 増)

合併により当社の事業となった教育事業につきましては、4 億 5 5 百万円の売上となりました。

特別事業におきましては、有価証券運用は僅少で、環境事業につきましても営業継続中で当社単独の第 1 四半期売上高は 1 億 8 億 5 4 百万円となりました。(前年同期比 51.8% 増)

当社グループにつきましては、教育事業関連の子会社 3 社の売上高 5 2 百万円、その他事業の子会社 3 社の売上高 1 億 9 0 百万円により、当社グループの売上高は 2 0 億 9 6 百万円となりました。(前年同期比 10.9% 増)

損益面につきましては、当社単独では、ニッケル事業、不動産及び関連事業において増収となりましたが、教育事業においては季節的な要因から減収となり、1 億 7 百万円の営業損失の計上となりました。経常段階では関係会社からの受取配当金 2 億 4 8 百万円等が計上されたため経常利益 7 6 百万円、当期純利益 1 億 1 0 百万円となりました。連結における損益は、持分適用会社からの受取配当金等が連結会計処理上減額となるため経常損失 2 億 3 0 百万円、当期純損失 2 億 1 5 百万円となりました。

なお、中間及び通期の業績予想につきましては、平成 18 年 5 月 30 日の決算発表時に公表いたしました予想数値と変更はございません。

3. 平成 19 年 3 月期の連結業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

	売上高		経常利益		当期純利益	
	百万円		百万円		百万円	
中間期	5,800		300		350	
通期	13,600		1,130		1,120	

(参考) 1 株当たり予想当期純利益 (通期) 1 円 07 銭

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

[連結業績予想に関する定性的情報等]

連結業績予想につきましては、平成 18 年 5 月 30 日の決算発表時に公表いたしました予想数値と変更はございません。



平成 19 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況 (個別)

平成 18 年 8 月 18 日

上場会社名 株式会社エス・サイエンス

(コード番号: 5721 東・大証第 1 部)

(URL <http://www.s-science.jp/>)

代表者 代表取締役社長 品田 守敏

問合せ先責任者 常務取締役 太田 洋三

TEL : (03) 3216 - 6431

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無: 無

最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無: 無

2. 平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績の進捗状況 (注) (金額表示: 百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成 19 年 3 月期第 1 四半期	1,854	51.8	107		76		110	
平成 18 年 3 月期第 1 四半期	1,221	76.9			278		277	
(参考) 平成 18 年 3 月期	6,261	97.6	707		522		748	

(注) 当第 1 四半期より営業利益を開示しておりますので、前年第 1 四半期実績については記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期における我が国の経済は、設備投資、個人消費等の民需が堅調で、緩やかな景気拡大を持続しております。

ニッケル業界におきましては、主な需要先であるステンレス業界は好調を継続しており、本年度のニッケル需給はほぼ均衡と見込まれますが、LME 価格は投機資金の介入もあり非鉄金属全般の相場上昇により、期首のトン当たり 15,000 ドル台から 6 月末には 22,000 ドル台へと急騰しております。国内の需要につきましては、当社が販売に注力しております IT 関連材向けは急回復しておりますが一般メッキは低迷した状態で推移いたしました。

このような状況からニッケル事業につきましては、販売数量・販売価格のアップにより売上高は 9 億 5 8 百万円となりました。(前年同期比 35% 増)

不動産及び関連事業におきましては、販売・賃貸・仲介等の収入並びに建設業関連で 4 億 4 1 百万円の売上となりました。(前年同期比 298% 増)

合併により当社の事業となった教育事業につきましては、4 億 5 5 百万円の売上となりました。特別事業におきましては、有価証券運用は僅少で、環境事業につきましても、営業継続中で当社単独の第 1 四半期売上高は 1 億 8 億 5 4 百万円となりました。(前年同期比 51.8% 増)

損益面につきましては、ニッケル事業、不動産及び関連事業において増収となりましたが、教育事業においては季節的な要因から減収となり、1 億 7 百万円の営業損失の計上となりました。経常段階では関係会社からの受取配当金 2 億 4 8 百万円等が計上されたため経常利益 7 6 百万円、当期純利益 1 億 1 0 百万円となりました。

なお、中間及び通期の業績予想につきましては、平成 18 年 5 月 30 日の決算発表時に公表いたしました予想数値と変更はございません。

3. 平成 19 年 3 月期の業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

	売上高		経常利益		当期純利益	
	百万円		百万円		百万円	
中間期	5,200		380		420	
通期	13,300		1,000		1,030	

(参考) 1 株当たり予想当期純利益 (通期) 1 円 01 銭

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

[業績予想に関する定性的情報等]

個別業績予想につきましては、平成 18 年 5 月 30 日の決算発表時に公表いたしました予想数値と変更はございません。